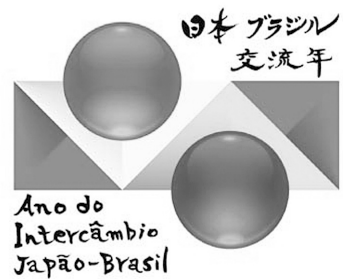


## [国際会議]

## ブラジル日本人移民100年の軌跡

## はじめに

ラテンアメリカ研究所は、「ブラジル日本人移民百周年」を迎えた2008年10月、立教大学において「ブラジル日本人移民100年の軌跡（Centurial Trajectory of Japanese Immigrants in Brazil）」と題する国際会議を開催した。この国際会議は、「外務省日伯交流年認定事業」に採択され、立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）の助成金を受けて実施された。以下にその概要をまとめる。



## 1. 開催の経緯と趣旨

ブラジルにおける日本移民の歴史は、2008年でちょうど100周年を迎えた。これを機に、日本とブラジルの双方で移民をめぐるさまざまな行事や研究が企画された。とりわけ現地の日系社会では、大部の『ブラジル日本移民百年史』の編纂や、移民史料館の建設・改修など、各地で一世紀におよぶ日本移民の歴史を後世に伝えることへの関心が高まった。こうした中、ブラジル日本人移民100周年を日本とブラジルが協働で移民研究を推進する好機と捉え、次の100年に向けて両者の友好・協力関係をさらに深化させることが切望された。こうした状況の中、当国際会議は次のような目的を掲げて開催された。

- 1) ブラジル日本移民研究の学問的・社会的意義とその重要性を検証する。
- 2) ブラジル日本移民研究の足跡を多角的に分析し、残された課題や移民研究の深化に向けた今後の具体的方策を検討する。
- 3) 2007～2008年度立教大学SFR（学術推進特別重点資金）単独プロジェクト研究課題「ブラジルにおける日系移民資料の分析・保存とデジタルアーカイブ構築：移民百年の軌跡」の研究成果を公表し、ブラジル日本移民研究の新たな視座と移民資料の恒久的な保存・公開方法の在り方について広く社会に提案する。
- 4) 日本とブラジルの長年にわたる友好・協力関係を確認し、両国の今後の国際・研究交流の

あり方を模索する。

## 2. 会議概要

会 議 名	和文	ブラジル日本人移民100年の軌跡		
	欧文	Centurial Trajectory of Japanese Immigrants in Brazil		
主 催	立教大学ラテンアメリカ研究所			
共 催	サンパウロ人文科学研究所			
後 援	日本ラテンアメリカ学会、日本ブラジル中央協会、DAF（デジタルアーカイブフォーラム）、駐日本ブラジル連邦共和国大使館、外務省日伯交流年認定事業			
開催責任者	丸山 浩明（文学部・教授）			
学内参加者	山本 博聖（理学部・教授） 中村 茂生（ラテ研・研究員） 豊田由貴夫（観光学部・教授） 実松 克義（異文化コミュニケーション学部・教授）			
運営事務局	篠塚 恵子（ラテンアメリカ研究所事務局）			
開催期間	2008年10月25日から2008年10月26日まで			
開催場所	立教大学池袋キャンパス7号館1階 7102教室			
会議招聘参加者数	学内	5名		
	学外	国内から招聘	9名	
		海外から招聘	4名	1カ国
		合計	18名	2カ国（日本・ブラジル）
会議への一般参加者数	①	2008年10月25日	96名	2カ国
	②	2008年10月26日	61名	2カ国
開催日程		午前	午後	夜
	第1日	開会式・基調講演 会議の趣旨説明	ブラジル日本移民 研究における「空白」 と「断絶」 共同討議	懇親会
	第2日	ブラジルにおけるに 日系移民資料の分 析・保存とデジタル アーカイブ構築	ブラジルにおけるに 日系移民資料の分 析・保存とデジタル アーカイブ構築 共同討議	
	第3日	なし	なし	

### 3. 国際会議のプログラム

**【第一日（10月25日）】 会場：立教大学池袋キャンパス7号館1階7102教室**

〈午前：開会式および基調講演〉

- 10:30 開会式 大橋英五（立教大学総長）・駐日ブラジル国大使館メッセージ・駐日ボリビア大使挨拶
- 11:00 基調講演 石川友紀（琉球大学名誉教授）
- 11:40 会議趣旨説明 丸山浩明（立教大学教授・ラテンアメリカ研究所所長・本会議主宰）
- 12:00 昼食

〈午後：共同討議 ブラジル日本移民研究における「空白」と「断絶」〉

- 13:00 映像作品上映「ブラジル日本移民百年の軌跡」
- 13:30 「日本人によるブラジル日本移民研究の現状と課題」  
森幸一（サンパウロ大学教授）
- 14:00 「ブラジル人による日本移民研究の現状と課題」  
本山省三（サンパウロ大学教授・サンパウロ移民史料館館長）
- 14:30 「外交史料館所蔵ブラジル日本移民関係史料と研究の可能性」  
柳下宙子（外務省外交史料館）
- 15:00 コーヒーブレイク
- 15:30 「ブラジルにおける日本人移民の特徴：ヨーロッパの移民との比較を通じて」  
宮尾 進（元サンパウロ人文科学研究所所長）
- 16:00 共同討議  
「ブラジル日本移民研究における「空白」と「断絶」－研究深化への展望－」  
司会：丸山浩明（立教大学教授）コメンテーター：三田千代子（上智大学教授）
- 17:15 閉会

**【第二日（10月26日）】 会場：立教大学池袋キャンパス7号館1階7102教室**

立教大学ラテンアメリカ研究所SFRプロジェクト研究報告  
「ブラジルにおける日系移民資料の分析・保存とデジタルアーカイブ構築」

〈午前10:00～：事例研究報告1 サンパウロ州バストス／マツグロツソ・ド・スル州カンボグランデ／マツグロツソ・ド・スル州バルゼアアレグレ〉

- 「バストス市の歴史的概要と日系社会の現状－アンケート調査の結果より」  
中村茂生（ラテンアメリカ研究所研究員）・渡辺伸勝（関西学院大学大学院研究員）
- 「映像を利用したカンボグランデの日系社会発展史：デジタルアーカイブの試み」  
丸山浩明（立教大学教授）

「戦後のJAMIC移住地・バルゼアアレグレの歴史」

小島アナ（マツグロツ・ド・スル連邦大学）

#### 事例研究報告2 移民「写真」資料のデジタル化とデジタルアーカイブの構築・利用

「ブラジル日本移民史における写真資料の性格と重要性」

中村茂生（ラテンアメリカ研究所研究員）

12:00 昼食

#### 〈午後 13:00～：事例研究報告3〉

「ブラジルにおける日系移民「写真」資料のデジタル化：その成果と課題」

山口真里（慶應大学DMC統合研究機構）・西山洋介（慶應大学メディアセンター本部）

「移民『写真』資料のデジタルアーカイブ構築とその研究」

遠山緑生（嘉悦女子大学講師）

「移民『写真』資料デジタルアーカイブ利用の実際－サンパウロ州奥地の山焼きの事例－」

渡辺伸勝（関西学院大学大学院研究員）・入江 伸（慶應大学メディアセンター本部）

「移民資料のデジタル化にともなう著作権の問題と対応」

石井美穂（慶應大学DMC統合研究機構）

15:00 コーヒーブレイク

15:30

#### 共同討議

「移民研究におけるデジタルアーカイブの意義と可能性」

司会 入江 伸（慶應大学メディアセンター本部）

16:45 閉会式

#### 4. 国際会議の学術的意義

当国際会議の学術的意義をまとめると次のようである。

- 1) 移民研究やそれに関わり収集された情報・資料の整理、保存、公開方法など、日本移民にかかわる諸分野の専門家が一堂に会し、これまでにない多様なテーマで議論を行うことができた。
- 2) 新たな視座で取り組んだ具体的な移民研究の成果が公表され、日伯両国の専門家による活発な意見交換が行われたことで、移民研究のさらなる発展が見込まれた。
- 3) 歴史研究に重要な資史料を広く公表・共有する方法として、デジタルメディアを利用することの有効性や課題について議論を深めることができた。
- 4) 人文・社会科学（歴史、地理、文化人類学など）と情報科学との連携による萌芽的なプロジェクト研究の成果が公表され、さらなる発展への道標が得られた。
- 5) 移民研究の資料や成果をデジタルメディアコンテンツに作りかえ、一般利用者から研究者までがインターネットを介して幅広く活用できるように設計した試験サイトに関して、多方

面より広範な意見聴取が行えたことで、今後さらなる改良と発展が見込める。

- 6) 資料のデジタル化やそのWeb公開が、現地社会や移民にとってどのような意味を持つのかという問題も含めて、研究成果の社会還元について現地研究者らと議論を深めることができた。

## 5. 国際会議の総括

国際会議「ブラジル日本人移民100年の軌跡」は、2日間にわたり滞りなく、盛況のうちに閉幕した。会議参加者は、大学の研究者はもとより、南米の駐日大使、新聞記者（朝日・ニッケイ）、国立国会図書館の職員、大学院生、ブラジル移民やその親族、立教大学ラテンアメリカ講座受講生など、実に多彩な顔ぶれとなり、研究成果を広く社会に公開して意見交換を行う貴重な場と機会を提供することができた。

ブラジルから招聘した研究者は、これまでブラジル日本移民研究を支え、そして今後もその重責を担って行くであろう一世や二世であり、彼らと日本の移民研究者がともに研究成果を披露し、さらに共同討議において移民研究の課題や将来的な展望について具体的かつ建設的に意見交換できたことは、特筆すべき大きな成果であった。

2008年にはブラジル日本移民100周年を記念して、日伯両国でさまざまなイベントが「外務省日伯交流年認定事業」などにより実施されたが、当国際会議のように真正面から日本移民を見据えた学術的な交流事業は希有であった。そして、過去を振り返るだけでなく、両国の将来的な学術交流にまで踏み込んで議論できたことの意義は大きかったといえる。

また、立教大学SFR単独プロジェクト研究として進めてきた、ブラジル日本移民の急速な高齢化にともなう移民資料の消失を食い止めるための活動とその成果を、デジタルアーカイブの制作を通じて広く社会にアピールできたことも、もう一つの特筆すべき成果だったといえる。

## 6. 研究書の出版－国際会議の成果報告－

国際会議「ブラジル日本人移民100年の軌跡」の内容は、ラテンアメリカ研究所の協力を得て、2010年7月に明石書店より次の著書として出版された。

丸山浩明編著 2010. 『ブラジル日本移民－百年の軌跡－』明石書店、350頁。

なお、本書は2011年6月に地理空間学会学術賞を受賞した。著書内には、立教大学SFR単独プロジェクト研究において収集した多数の貴重な日本移民の写真が掲載されている。

(文責：丸山 浩明)